

PRESS RELEASE 2024. 8. 19

NPO 法人綴る 2024 年度秋季展覧会

消えつつ 生まれつつ あるところ

A Place That is Vanishing While Being Born

| | |
|---------------------------|--|
| 展覧会名 | 消えつつ 生まれつつ あるところ A Place That is Vanishing While Being Born |
| 会期 | 2024 年 10 月 19 日(土)～11 月 18 日(月) |
| 開場 | 12:00～18:00 (最終受付 17:30) 期間内の土曜日・日曜日・月曜日のみ |
| 会場 (全 5 箇所) | イクヤマ家 (石川県金沢市菊川 2 丁目 14-3) お向かいの家・K アパート・角の家・松本家 |
| 観覧料 | 1,500 円 (関連イベントチケットは別途ご購入ください) |
| アーティスト/グループ (アルファベット順) | 中森あかね Akane Nakamori 田中宏和 Hirokazu Tanaka 佐藤弘隆 Hirotaka Sato 下出和美 Kazumi Shimode 道念邦子 Kuniko Donen マーガレット・ウィブマー Margret Wibmer ニック ヴァンデルギーセン Nik van der Giesen O33 Ou Sansan 清水冴 Sae Shimizu サブドキュメント sub-document |
| 主催 | 特定非営利活動法人綴る |
| 助成 | ハウジングアンドコミュニティ財団 Federal Ministry Republic of Austria. Arts, Culture, Civil Service and Sport アイスタイル芸術スポーツ振興財団 澁谷学術文化スポーツ振興財団 |
| キュレーション | 中森あかね、清水冴 |
| アシスタントキュレーター | 笠間亜理沙 |
| サイン計画・インストール | 山本周、頼安ブルノ礼市 |
| 問い合わせ | 中森あかね akane@susei-art.com 電話:090-1637-6251 清水冴 shimizusae@gmail.com |
| 展覧会公式インスタグラム | @kietsutsu_umaretsutsu |

※本展覧会は金沢 21 世紀美術館主催「すべてのものとダンスを踊って—共感のエコロジー」連携企画「もっと踊ろう！共感のエコロジー」に参加しています。

展覧会ステイトメント

植物は、発芽し、成長し、開花し、種子を残し、枯死・休眠するというライフサイクルがあります。日本では古来より建築素材として樹木が用いられてきましたが、この展覧会では菊川という土地に根ざす「空き家」を、枯死・休眠の段階にある植物として想像します。かつて誰かがそこに住み込み、日々の生活を営み、去る。風雪や災害にも家屋は傷む。やがてそれは打ち捨てられ、空き家となる。しかし、葉を落として枯れ、休眠することが植物の次なる生のサイクルに不可欠のように、菊川の空き家もまた安らかな休息の過程にあるのではないのでしょうか。そして今、長く眠っていた空き家の窓がそっと開けられ、誰かがその場に介入しようとしています。家の持つ記憶をなぞり、そこに新しい空気を吹き込んでみる。かつての住人が遺した痕跡に、水を与えて攪拌してみる。その静かな営みは、次なる生の芽吹きを予感させることでしょう。

会場となる菊川の5軒の空き家(空き部屋・空き家を改築した家)では、アーティストやパフォーマーによる作品が展開され、人びとは路地をそぞろ歩きしながら、展覧会を巡ることになります。その拠点となる昭和後期に建てられた一軒家「イクヤマ家」では、道念邦子(1944-)が「永遠に続く今」を意味する常緑樹・朝鮮槇(ちょうせんまき)の葉をモチーフとしたインスタレーションを発表します。イクヤマ家の向かい、戦前に建てられた一軒家「お向かいの家」では、佐藤弘隆(1993-)がデジタル時代の死生観と倫理をテーマとしたメディア・インスタレーション、O33(1993-)は羊の腸を素材に、チベット仏教に基づく死生観をテーマとしたテキスタイル作品を発表。イクヤマ家で滞在制作を行うマーガレット・ウィブマーは、ラブレターをモチーフに「愛」を探求する参加型のパフォーマンスを行います。昭和後期の「K アパート」では、3つの空き部屋で3名の作品が展示されます。田中宏和(1998-)は空き部屋をそのまま作品とする仕掛けを作り、中森あかね(1962-)は室内で植物を育て、朽ちた部屋を聖なる空間へと変容させるインスタレーション、ニック・ヴァンデルギーセン(1981-)は能登を撮影した写真作品を発表します。昭和初期から住居兼店舗として使われていた「角の家」では、金沢を拠点とする創作ユニット、サブドキュメント(2021-)が「のこされたもの」をモチーフに演劇を行います。そして、築100年以上の空き家を改修した「松本家」では、生い茂る草花のなかに悠々とたたずむ不思議な少女(あるいは少年)や小動物を描いてきた下出和美(1983-)による絵画作品、庭先を流れる鞍月用水から着想を得た清水冴(1997-)による参加型の作品が設置されます。

今年の初め、令和6年能登半島地震に際し、多くの人びとが大切な人や場所を失いました。芸術には、この喪失を癒し、希望へと変える力があるのでしょうか。植物のように、人間も、家屋も、コミュニティも生まれては消え、そしてまた生まれる、という循環を辿ってきました。芸術の創造性を通じ、植物をいたわるように、自己や他者、家屋やコミュニティをいたわり、育む。菊川の空き家群—消えつつ生まれつつあるところ—を巡りながら、みなさんと共に、試みてみたいと思います。

※展覧会タイトル「消えつつ生まれつつあるところ」はメキシコで舞踏家としての最期を全うした舞踏家・中嶋夏の舞台「消えつつ生まれつつあるもの」(中嶋夏と霧笛舎)から引用しました。

本展の特徴

空き家群を生かした展覧会

本展覧会は、空き家の活用とコミュニティの活性化を目指すNPO法人「綴る」が主催し、金沢市・菊川の空き家群にある5軒の家屋（空き家、空き部屋、空き家を改築した家など）を使用します。藩政期時代、足軽の居住エリアだった菊川は、敷地が狭く建替えが難しいなどの理由で郊外へ転居する世帯が多いため、今なお空き家が増え続けています。一方でこのエリアは、市中心部から徒歩20分圏内に位置し、藩政期からの長い歴史や物語をはらむ魅力的な場所です。本展に訪れた人びとは迷路のような菊川の路地に迷い込み、非日常を体験することになるでしょう。

参加アーティスト/グループ



道念邦子 Kuniko Donen

1944年石川県石川郡神主町（現・白山市）に生まれる。1957年に古流柏葉会山脇紅華古流いけばな教室に入門し、1967年に古流柏葉会生華広岡理魁・自由花広岡紫穂に学ぶ。1970年代よりより伝統にとらわれない自由な花をいけることを目指し、現代美術のギャラリーでの個展形式でも作品を発表。金沢市東山「茶房一笑」季刊誌「動橋（いぶりばし）」のための花を長年担当。花をあらゆる角度から捉え、いけばな表現の前衛を切り拓く。いけばな界のみならず現代美術の方面からの評価も高い。近年の展覧会に、グループ展「気配ー花・その色と形」（2020、彗星倶楽部/金沢）、「きのふいらつしつてください」（2021、横山町の家/金沢）がある。



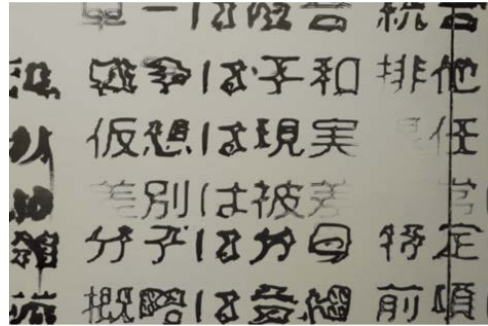
左：道念道子《孟宗竹 鳩目》（1984）撮影：安斎重男 中央：道念道子《孟宗竹 キューブ》（1988）撮影：池端滋

右：道念道子《かみのみち》（1996）撮影：池端滋



佐藤弘隆 Hiroataka Sato

1993年新潟県生まれ。富山大学大学院芸術文化学術研究科修了。富山県在住。2019年より富山大学学術研究部芸術文化学系助教。AIやコンピュータ、機械装置、映像、自然現象などの様々なメディアを組み合わせた複合技法によって、現実と虚構、オリジナルとコピー、デジタルとアナログ、人間と機械といった、さまざまな対義的要素の境界や矛盾を探るような表現を実践している。近年の作品には、正反対の意味を持つ単語を「AはB」(A is B)の文法で接続した文章としてロボットアームが書き出していく《戦争は平和》(2023, 個展「hoge hoge」ギャラリー無量/砺波)。主な展覧会に「ART FAIR TOKYO 2018・2019」(東京国際フォーラム)、「Monster Exhibition 2017」(渋谷ヒカリエ/hpgrp Gallery New York)など。



佐藤弘隆《戦争は平和》(2023) マルチメディア・インスタレーション ロボットアーム、筆ペン、三脚、ステッピングモータ、ドリーレール、他 撮影：柳原良平



マーガレット・ウィブマー Margret Wibmer

オーストリア・リエント生まれ。オランダ・アムステルダム在住。1980年代ニューヨークにて、アーティスト宮本和子とともにソル・ルウィットのアシスタントを務める。日常の素材を用いた写真、パフォーマンス、オブジェの制作を通じ、人間の根源的な感情を探求している。主な作品に、著名な哲学者や文学者などが友人らに充てた手紙を朗読して聞かせる《Salon d'Amour》(愛のサロン)がある。2022年にはジョン・D・ハルパーンとエミリー・M・ハリスが率いるアメリカの「カルチュラル・アクティビズム」に参加し、パフォーマンス作品《スロー・ウォーク》(2022)を共作。いずれも、世界各地で上演している。



左：margret wibmer_salon d'amour_blue with hands_courtesy studio margret wibmer//2024

中央：margret wibmer_salon d'amour_brown mask_courtesy studio margret wibmer//2024 右：margret wibmer_salon d'amour_red mask_courtesy studio margret wibmer//2016

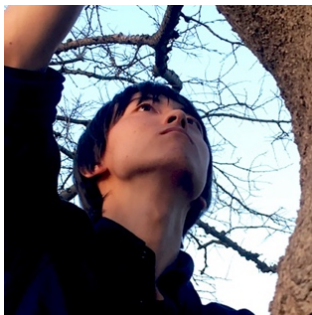


O33 Ou Sansan

1993年中国・内モンゴル生まれ。金沢美術工芸大学大学院博士課程2年。少数民族であるモンゴル民族として、モンゴル民族と漢民族の文化の狭間で育った背景から「こちら側でもなく、あちら側でもない」場所に関心を寄せる。牛や羊といった動物の腸を素材に用いて、テキスタイルやインスタレーション、立体物などを制作している。主な展覧会に、「記憶をほどく、編みなおす」(2023, ギャラリー無量/砺波)、「GO FOR KOGEI 2023」(2023, 岩瀬エリア・沙石/富山)、「金沢彫刻祭 2023」(2023, 箔一ビル/金沢)がある。



O33 《うっせみ-ほうえん》(2023) 羊腸 撮影：中井輪



田中宏和 Hirokazu Tanaka

1998年岐阜県生まれ。金沢美術工芸大学大学院博士後期課程1年。修了作品《雲を切り取る》(2022)では、うつ病の経験から石を造形する際の反復行為を、瞑想感覚を得るセルフケアの手法として用いつつ、その過程で生まれた造形物を配置することで静謐な空間を作り上げ、心の安穏を他者と共有することを試みた。近年ではそのような、言葉を介さない自己や他者への「ケア」の在り方を探求している。本作は招聘審査員特別賞(日野雅司氏)を受賞。主な展覧会に、「GRAY 田中宏和 個展」(2023, 芸宿/金沢)、「みのかも annual 2019」(2019, 美濃加茂市民ミュージアム/美濃加茂)がある。



田中宏和 《雲を切り取る》(2022-) 石 撮影：池田ひらく



中森あかね Akane Nakamori

1962 年金沢市生まれ。金沢美術工芸大学油画専攻卒業。金沢在住。彗星倶楽部ディレクター。金沢を拠点に 40 年にわたり作品を発表する傍らで、展覧会企画や共同プロジェクトを通し、現代美術作家の作品を紹介してきた。近年の主な作品には、人間の生死と尊厳をテーマとした《喪失のポリフォニー》(2023, 「記憶をほどく、編みなおす」ギャラリー無量/砺波)、大正 15 年に建てられたのビルの地下室で当時の看護師を演じたパフォーマンス・インスタレーション《く・ん・じょう》(2021, 石黒ビル/金沢)、金沢に暮らす高齢女性たちのライフヒストリーをモチーフとしたボイス・インスタレーション《Table Talk》(2021, 「きのふいらつしつてください」横山町の家/金沢)がある。



左：中森あかね《く・ん・じょう》(2021) 右：中森あかね《Table Talk》(2021) 撮影：Nik van der Giesen



ニック・ヴァンデルギーセン Nik van der Giesen

1981 年オランダ・ロッテルダム生まれ。2011 年より東京に移住、2018 年より金沢在住。ウィレム・デ・クーニング・アート・アカデミー（ロッテルダム）マルチメディア・デザイン卒業。日本の自然風景や伝統的な美意識を探求し、繊細で静寂な感覚に包まれる写真作品を発表してきた。本展覧会では 2024 年 1 月 1 日に発生した能登半島地震以降に撮影した写真シリーズを発表。能登半島は作家にとって重要なインスピレーションの源となっており、このシリーズで彼は能登を再訪し、震災がこの地域に与えた影響を探っている。



右：Nik van der Giesen 'Untitled, May 2024' 左：Nik van der Giesen 'Untitled, May 2024'



サブドキュメント sub-document

北陸を中心に活動する創作ユニット。2021年結成。学生時代、金沢を拠点に演劇をしていたメンバーで構成される。金沢ナイトミュージアム2022では、大手町洋館を舞台に、出演者と観客が入り交じりながら空間を変化させていくライブインスタレーション《Re:ving record》(2022)を発表。その場所の記録や記憶から想起していく作品づくりをおこなっている。



サブドキュメント《Re:ving record》(2022) 撮影：トナカイ

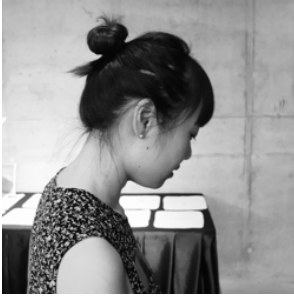


下出和美 Kazumi Shimode

1983年石川県生まれ。金沢美術工芸大学大学院絵画専攻油画コース修了。金沢在住。制作初期から一貫して、無造作に植物が生い茂る空き地のような場所にたたずむ少女や少年、小動物をモチーフとして描いてきた。作中に描かれたものたちは、生きているのか、死んでいるのか、幸福なのか、不幸なのか、そのどちらでもないのか。それは見る者ひとりひとりの、その瞬間の内面を映し出しているようである。近年の主な展覧会には、個展「鳥はまた青ぞらを截る」(2024, HARMAS GALLERY/東京)、個展「Small breath」(2023, April shop/東京)、個展「親密な配置」(2022, HARMAS GALLERY/東京)がある。



左：下出和美 《世界はつながっていた（ネズミと石とカメラ）》(2023) 右：下出和美 《不定な雲を見る（犬と亀とリス）》(2024)



清水冴 Sae Shimizu

1997年金沢市生まれ。金沢美術工芸大学大学院芸術学専攻修了。金沢・北京を拠点に「人間の尊さとはなにか」を探る実践として制作や展覧会のキュレーションを手掛ける。主な作品に、参加者が自分の名前を刺繍しながら名前にまつわる物語を話す《Stitch Your Name》(2022-2023, Jim Thompson Art Center/バンコク, 代官山ヒルサイドフォーラム/東京, 他)がある。



清水冴《Stitch Your Name》(2022-2023) 映像(15分)、参加者の刺繍

パフォーマンス・イベント

■ マーガレット・ウィブマー 《Salon d'Amour》(愛のサロン)

NPO法人「綴る」が招聘するレジデンス・アーティストとして、マーガレット・ウィブマーはイクヤマ家で1ヶ月間の滞在制作を行う。近年高い評価を得ている作品《Salon d'Amour》は、マスクをつけた参加者が、有名な作家やアーティストのラブレターや詩、文章を朗読し合うパフォーマンスである。神秘的で深い内省的な雰囲気が一斉に呼び起こされ、「愛」というものがいかに人の心を打ち、それが物事を変容させるかを作品にしている。

料金：1,500円 (Peatixにて予約受付・当日支払) 各回定員：8名・事前予約制

■ サブドキュメント公演《あの頃を思い出して眠りにつけばいい》

金沢を拠点に活動する創作ユニットのサブドキュメントは、角の家を舞台に演劇を上演する。演出・脚本は楠彩。出演は間宮一輝、川端大晴、畑昂志、弥本理央。なお会期中は、公演日以外も角の家を開放している。

料金：1,500円 (Peatixにて予約受付・当日支払) 各回定員：12名・事前予約・当日券有り

ホームページ：<https://sub-document.jp>

Instagram：https://www.instagram.com/sub_document

X：https://x.com/sub_document

キュレーション

中森あかね Akane Nakamori

金沢市彗星倶楽部（1998-、元は bar）にて展覧会企画を行い、国内外アーティストの展覧会を開催してきた。これまで手がけた主な展覧会に、野村佐紀子《月読》（2005、金沢市内 8 か所）、《カナザワ・フリンジ》（2015-2017）、《河口龍夫 発芽するのを待つ時間》（2015）、《きのふいらつしつてください》（2020）、《夢の夢 奥の奥 残りの火 中嶋夏舞踏公演 in 金沢》（2022、石黒ビル）ほか。

清水冴 Sae Shimizu

これまで手がけた展覧会には、クィアな人物だったアンデルセンから着想を得て、沈黙を強いられた人びとの生きづらさをテーマとした「物語る人魚たち」（2021、山岸薬局ビルディング+GARAGE）、東アジアにルーツを持つアーティストの「トラウマ」や家族の秘密をテーマとした「記憶をほどく、編みなおす」（2023、ギャラリー無量/砺波）がある。

アシスタントキュレーター



笠間亜理沙 Arisa Kasama

1998 年富山県生まれ。金沢美術工芸大学大学院芸術学専攻修士 1 年。周縁化される人々やそのような存在が生み出されてしまう社会構造、また、エコロジー・戦争など世界を取り巻くさまざまな社会的事象に対するアート独自のアプローチに関心を持つ。研究分野はエスニックマイノリティのアート。

サイン計画・インストール



山本周 Shu Yamamoto

1985 年新潟県生まれ。建築士。金沢美術工芸大学大学院修了。長谷川豪建築設計事務所勤務。2015 年に独立し、2017 年に金沢に移住。設計の仕事の傍ら、金沢市の住民が作り出した風景を収集する活動『金沢民景』を主宰。金沢美術工芸大学非常勤講師。金沢工業大学非常勤講師。



頼安ブルノ礼市 Bruno Reichi Yoriyasu

1997年愛知県生まれ。内装設計・施工。金沢美術工芸大学大学院修了。『公共物の私的利用に関する研究』や『エンジョイソッコークラブ』、『禁止/PROHIBITION』などの冊子製作も行う。金沢美術工芸大学非常勤講師。

NPO 法人「綴る」について

2023年9月設立。金沢市菊川・幸町の管理されていない空き家の減少と、高齢化する住民・NPO会員・移住者・アーティストなどが世代や分野を超えてつながり、相互扶助できるコミュニティの形成を目指している。活動例として、空き家・空き地を“地域資源”として捉え、シェアキッチン、コワーキングスペース、図書館、アトリエ、ギャラリー、ミニ菜園、共同駐車場といった地域住民やNPO会員らの共用施設へと転用している。

ホームページ：<https://www.tsuzuru.org>

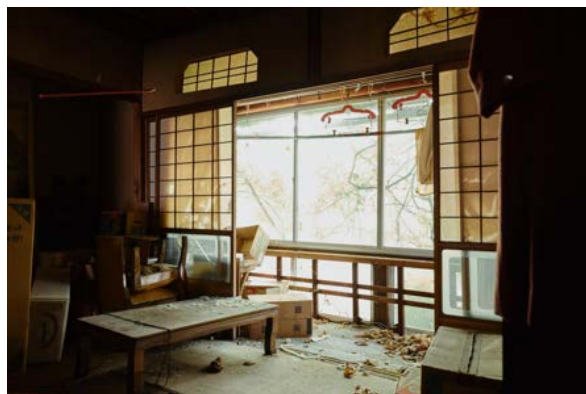
Instagram：[@tsuzuru.ie](https://www.instagram.com/tsuzuru.ie)

綴る 代表理事



松本有未 Yuumi Matsumoto

1982年石川県生まれ。宅地建物取引士。金沢大学卒業後、編集者などを経て、2009年に不動産業界へ。2014年菊川にて「ことのは不動産」を開業。売買・賃貸の仲介だけでなく、空き家の改修再販プロジェクト「編む」など様々な企画から不動産の活用・流通にアプローチする。ことのは不動産株式会社代表取締役。一般社団法人金澤町家活用推進機構理事。



「編む」プロジェクト 撮影：Nik van der Giesen

会場アクセス

展覧会拠点：イクヤマ家（石川県金沢市菊川2丁目14-3）にてチケットの販売を行っています。

- *東京より 北陸新幹線で金沢まで 約2時間30分
- *大阪、京都より サンダーバード・北陸新幹線で金沢まで 約2時間30分
- *金沢駅兼六園口から18番バスで「思案橋」下車 徒歩3分
- *金沢駅兼六園口からタクシーで 20分
- *金沢21世紀美術館から 徒歩15分・タクシーで5分
- *駐車場はございません。近隣のパーキングをご利用ください。



左：展覧会拠点となるイクヤマ家 右：イクヤマ家のシェアキッチン。

Cafe

展覧会会期中、イクヤマ家では下記の3店が当番制でカフェ営業いたします。

乗越：金沢市・寺町寺院群の小路にひっそり佇む町家カフェ。毎年2月に開かれる「乗越チューリップ祭り」は金沢に春の訪れを告げる恒例イベントになっています。

あさこ食堂：あさごはんとおやつ、時々よるごはんのお店。身体が喜ぶのを感じられるような、やさしくてほっとするごはんを提供しています。イクヤマ家にて不定期営業中。

Cafe Cove：能登半島地震によりお店は大きな被害を受け、現在は再建に向けた準備を進めながら、みんなの居場所であり続けるために金沢で「小さなCove」を開いています。

広報用画像

Google ドライブのリンクにて、画像を広報用にご提供いたします。ご希望の方は、下記をお読みの上、画像をご使用ください。

[ご使用条件] ※広報用画像の掲載には、各画像のキャプションをご明記ください。※情報確認のため、お手数ですが、校正データを清水 (shimizusae@gmail.com) までお送りください。以上、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

広報画像リンク https://drive.google.com/drive/folders/110_2EHFy0RnPG7zEsIHWljg3NjdREDva